

地域密着型サービス評価の自己評価票(2号館2階)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者や家族の主体的な意思決定を重視するとともに入居者の人格を尊重し、入居者と対等の立場で福祉サービスを提供することを明示し実践している。	玄関、食道ホール内に運営理念を掲示し、入所時には入所者及びその家族等に分かりやすく説明している。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に大きく理念を掲示し、目標の実現に向けて組織的に取り組み全職員が、理解浸透できるようにしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	町内会に入って地域交流を深め、地域に理解されるようコミュニケーションを密にしている。運営推進会議にはご家族様1名の参加を常とし協力を得ている。おたより等も自宅に届けている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くのスーパーへ買い物に出かけた時や、朝、夕の散歩を通して、近所の人と顔見知りになり、お互いに気軽に声を掛け合って世間話をしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、保育園、幼稚園等の行事に積極的に参加して地域の人たちとの交流を深めている。	<input type="radio"/> 中学生がホームヘルパー3級の実習に来ました。認知症介護アドバイザーとして、地域住民の理解を深め、中学生が福祉に関心をもてるように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議に老人会会長の出席を仰ぎ、地域の老人会の皆様と交流をもち、いも煮会等のホームの行事に気軽に参加していただき、親交を深めている。	○	入居者が散歩の途中、近隣の一人暮らしの方に「何か協力できる事がないか」と、声をかけていました。お互いに助け合う気持ちが芽生え、相乗効果をもたらしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かして、改善に向けて職員で話し合い、その結果を運営推進会議で報告し、さらに検討して入居者にとってよりよい生活ができるよう最善の努力を怠らないようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を反映しながら工夫できないか検討を重ねサービス向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のケアマネ連絡会の連絡会を立ち上げ、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	市内3か所のグループホーム連絡会を立ち上げ、技術・知識等の意見交換をし、互いの向上に役立てたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市の主催の研修会や講演会には積極的に参加して、必要な人の援助を支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けた研修を受け、家庭、施設で起きることのないよう防止している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、パンフレット等を渡し、十分説明している。また、契約時にも重要事項の説明を行い理解のうえ、記名・押印を受けている。(不明な時は、随時説明に応じている。)	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情等は、常に謙虚な態度で聞き、フォロー会議、職員会議、運営推進会議で議題にのせ、適切に対応できるよう、十分に話し合いをもっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回程度イラストと写真入りで「ひまわりたより」の広報誌を発行し利用者家族へ配布している。入居者の健康状態、生活状況が分かるよう工夫している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情(意見・要望も含む)処置マニュアルを作成し、誰もが、適切に対応できるよう。また円滑に、円満に解決するための心構えおよび、留意事項を定めている。	玄関に苦情の趣旨と手続きを紹介して、投書箱を設置している。苦情解決責任者1名、苦情相談担当者3名を配置している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、職員会議等で意見を出し合い、話し合いをし、検討、決定している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご家族の都合に合わせて、面談機会を多く持っている。また、入居者の状況によっても柔軟な対応をしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に際しては、入居者の安全を確保することを第一に考えています。よって、異動は最小限に抑えると共に、離職者は去年度実績で2人です。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回程度、外部講師を招いて、研修会を開催しております。また、職場内研修を充実させ、会議等の時間を利用し管理者による研修を行っています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の訪問を積極的に受け入れ、問題点等を話し合う機会を設けている。また、病院のケースワーカーとの連絡網を充実させ入居者の情報の相互提供を行い、介護の方法および健康チェックを行っています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニットごとにコミュニケーションを図り、またストレス解消のため、食事会を実施しています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回、職員に職務実績を提出してもらい、管理者に評価させています。それをもとに、給与の昇給及び賞与の査定を行っています。また、資格等を得た人には、責任あるポジションを与えています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前調査、入所時の面談等で本人、家族から情報を収集し、センター方式に書き込み、今望んでいる事、今してほしい事を見つけ出し、アセスメントを行い、課題・ニーズを明確にしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前調査、入所時の面談等で、家族が何に困っているのか、何を望んでいるのか、よく聴き、家族と本人の納得のいくよう援助している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の健康状態、生活状況を踏まえ、今どのような社会資源を必要としているのか等を良くアセスメントして対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居するときは、体験入居制度を設け、入居者に合っているかどうかを体験してもらっております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が経験した事、出来事を話してもらったり、季節の料理方法を教えていただいたりして、入居者の経験を活かしたQOLの向上に努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、敬老会、家族会等に入居者の様子や家族の近況報告を話し合っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ケアプランの説明及び、面会の時に家族が何を望んでいるのか、本人と家族がお互いに感謝の気持ちを持つことができるよう援助している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰が面会に来ててもよいように居室でゆっくりとくつろげる時間を設けたり、馴染みの病院へ診察に行くことによって、知っている人に会うこともできるので人や場との関係は大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者がお互いに助け合い、協力して日常生活の中で支え合って自然に生活している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了しても、継続的なかわりを必要とする入居者は現在の所ありませんでした。	○	終了しても、継続的な関わりを必要とする入居者の方がいた時には、時々、家庭訪問をしたり、電話をかけ、困っていることがないか、健康状態はどうか、たずねて安心して暮らせるよう援助したいです。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室には、使い慣れた家具、仏壇、イス等なじみ深い物を置き自分なりの生活の場所になるよう支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の方から今までどのような生活、人生を歩んできたかを聞き、センター方式を利用して、アセスメントして、それを活かせるよう入居者を尊重して、サービスを提供できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の体調や気分に合わせて、自分のペースで心身共に落ち着いて、ホーム時間ではなく一人一人の生活スタイルで生活できるよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が馴染みのある暮らしを継続できるよう、センター方式の生活環境シートを利用して、環境を整え、支援している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	フロア会議、カンファレンス等で随時ケアプランの見直し評価を話し合い、アセスメントを行い、関わり方や援助方法を検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録に身体状況や生活状況、ADLすべてを記録している。業務日誌の個人の経過記録の前にケアプラン表を挟み、常時確認し、記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの生活のリズムを尊重し、自由に自分のペースでスロースタイルな生活が送れるよう配慮している。また、外出、外泊は、いつでも許可されており、家族の希望を常に叶えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察の巡回、消防訓練、職員の普通救急講習受講などを行い、安全に暮らせるよう体制を整え、支援している。市より高萩祭、盆踊りなどの案内もあり協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向に添えるよう相談等を密に行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市内のグループホームの集まりを立ち上げ、地域包括支援センター等と協働し質の向上を図っていきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医師による治療を大切にしているが、場合により、入居者やその家族が希望すれば協力病院または、主治医以外の医師に診察を依頼することができるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>入居者の心の痛みを緩和できるように家族はもちろんのこと兄弟、親戚、友達などあらゆる人の助けを借りたいと思っています。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報管理規定を作成して、個人情報の管理を徹底している。実習生に対しては、オリエンテーション時に個人情報保護について説明している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者が日常的に食べたい物を献立に加えたり、おやつも自分で選んだり、入浴準備もできるだけ入居者とともに、自分の意志で生活ができるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて、自分のベースで心身共に落ち着いて生活が送れるよう工夫している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホーム内で日中を過ごす普段の服装、就寝時の服装、病院や行事等で外出する時の服装等、時と場所に応じ、身だしなみを整えている。また、季節に合わせて、おしゃれを楽しむ工夫もしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも入居者と同じテーブルで食事を共にします。食材や調理方法など、入居者との会話をしながら、家族的な雰囲気の中、食べる楽しみを持てるよう心がけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	月に一度季節の催しや誕生会を行い、好みのものを提供するようにしています。おやつ等は、食べたい物を作ったり、買って来たりしている。たばこを吸いたい人は、本人の健康状態を優先し、1日に5本までと決めて吸っています。お酒は、特別な行事の時だけです。嗜好は柔軟に対応しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の状態に合わせて、おむつ、失禁パンツなどに使い分けをおこなっております。排泄リズムを把握し、適切な援助ができるよう心がけています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせ、入浴順番、湯加減、入浴時間、時間帯を工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午前中は、軽いリハビリ体操や歌をうたって過ごし、午後は散歩に出掛けたり、動くレクリエーションを取り入れたりして、夜、安眠できるよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の状態に合わせて、食事の後かたづけや床のモップ掛け、洗濯物たたみ、話し相手、と個人の得意なことをし、互いに協力し合いながら生活を送れる様、援助している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、小口の現金に関しては、状態により本人が管理している。不可能な場合は、事務で預かって現金出納帳を個別に作成し、家族への報告をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の状態に合わせて、毎日散歩、買い物など自由に外出できるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事では入居者の希望をきき、行きたいところ、やりたいことを検討している。天気の良い日には、近場へ、ドライブをすることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるような家族とのコミュニケーションを多くもてるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、いつでも面会でき、家族がいつでも居室に宿泊できるよう整えている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成している。心身的、精神的拘束は一切していない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関の施錠はしておらず、見守りに徹している。玄関の出入り口には、センサーを配置し、ブザーで知らせようになっている。スタッフ1名は常にホールにおり、入居者の所在確認、状況確認を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは、常に食堂ホールにおり、入居者の様子が分かるようにしている。居室も時々、巡視して一人ひとりの位置と様子を常に把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	たばこを吸うためのライター、お裁縫をするためのはさみなどは一時本人が持っている場合がある。注意の必要な物品に関しては、保管場所、管理方法を取り決め実行している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	介護事故防止対応マニュアルを作成。事故発生時、事故報告書を作成して、フロアー職員全員が事故内容等の情報を分析し、事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時、応急処置マニュアルを作成して随時対応できるようにしている。また、救急救命の訓練もしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと防災訓練を実施して災害を未然に防ぐ方法を習得している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会、カンファレンス等において、起こり得るリスクを説明している。事故を起こさず、ADLを維持できるようケアプランを作成している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各ユニットに1名の看護師を配置している。毎日バイタルチェックを行い体調の変化を早く把握している。異変時には、協力病院の受診を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、用量の説明を薬局からうけ、個人のファイルに綴り、常に誰もが確認できるようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便誘導、ラジオ体操など体を動かすことに取り組んでいる。毎朝コップ1杯の牛乳や、または、ヤクルトなどを飲み、便秘にならないよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声をかけ、毎食後、口腔ケアを行う支援をしている。朝は歯磨きを励行、就寝前は入れ歯のケアを行い、常に口腔の清潔に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量のチェックをし、状況を把握している。献立表を作成し、おおよその摂取カロリーも把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入所前に感染症等の有無を確認している。感染予防マニュアルを作成して、衛生管理を徹底し、感染予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫は週に1度の除菌。調理器具は毎回、日光消毒。食器、コップ類は、週に1回、消毒をしている。衛生管理には十分、気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の外周は、いつでも自由に散歩できるようにしている。花壇造り、家庭菜園などを楽しんだり、洗濯物を干したり、ベランダでは椅子を置き、日光浴やリハビリを兼ね、体を動かしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとくつろげる和室がある。台所では対面式キッチンなので、いつでも見渡すことができ、生活観があり、家庭的な雰囲気での空間作りに配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にテレビを配置したり、ソファの配置を考慮して、ダイニングテーブル以外にも自由に過ごせる場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、個人に合わせた使い慣れた家具や生活用品を希望にそって置き、今までの生活環境からかけ離れたものにならないように支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレや居室の換気はこまめに行い、空調、温度など入居者に合わせて調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者がお互いに助け合い、協力して日常生活の中で支え合って自然に生活できるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	得意な事、したい事は積極的に行えるよう、声掛け、環境づくりを支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周は、いつでも自由に散歩ができる。ベランダは、洗濯物や布団を干したり、日光浴、喫煙、歌を歌う、など多目的に随時利用して楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

#1 地域との信頼関係を築く努力をする

○入居者の方が地域で顔なじみの人々と生活できるように、町内会の行事、市内の祭り・催しものには積極的に参加して、地域の一員であることを再認識してもらえよう支援しています。

#2 ボランティアさんの参加

○敬老会の化粧、踊り、いも煮会のお手伝い、カラオケなど、時々ボランティアの方がきて下さっております。なかには、曜日を決めてきて下さる方もいます。今後も、ドライブ、行事等の時に年齢・職種を問わず、いろいろな方がボランティアに参加して下さるよう力を入れていきたいと思っております。